西穂高岳独標遭難者追悼式　追悼の辞

本日ここに、ご遺族の皆さま、同窓の皆さまをお迎えして、西穂高岳独標　遭難者追悼式を執り行うにあたり、亡くなられた十一名の御霊（みたま）に対し、謹んで哀悼の意を表します。

今から五十六年前、昭和四十二年八月一日、松本深志高校二学年行事として五十五名が参加した、西穂高岳学年集団登山前班において、登頂した生徒・職員四十六名が西穂の山頂を下り、ちょうど独標の昇り降りにさしかかった午後一時四〇分頃、突然の激しい落雷に遭い、若き十一人の尊い命が失われてしまいました。

志を立て、理想に燃えて高校生活を送る中で、多くの可能性を秘めた自身の将来を思い描いていたであろう当時の生徒たちに思いを巡らせるとき、痛恨の情が胸に迫って参ります。

また安全であるべき学校行事の場で、このような事故が起きてしまったことをあらためて重大に受け止めるとともに、県立高校における危機管理の重要性を本校より発信して参る所存です。十一名の先輩方の御霊に深く頭（こうべ）をたれ、魂安らかならんことを心よりお祈りいたします。

三年後に、創立百五十周年を迎える本校ですが、歳月が流れ、人が入れ替わっても、松本深志高校に在籍した者は、この悲しい事故を決して忘れてはならないと考えています。

去る七月二十一日の終業式では、この事故について、報告書の写真や記載事項を引用しながら生徒たちに伝えさせていただきました。

志半ばで春秋の身を散らしてしまった、痛恨の教訓を胸にし、次の代に引き継いでいくこと、そして、二度とこのような事故を起こさないと決意を新たにすること、これが今の深志に在籍している私たちに課された重要な使命です。

生徒たちが、安心して、安全の下に、心豊かに生活できる学校をつくるために、引き続き、全力を尽くしていく決意です。

また、本日はＯＢＯＧの有志の皆様、本校山岳部の皆さん、さらには教頭、山岳部顧問が慰霊の登山を行っておりますことを申し添えたいと存じます。

終わりに、亡くなられた十一名のご冥福と、ご遺族の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げ、追悼の言葉といたします。

皆様方には、お忙しい中、ご参列いただき、誠にありがとうございました。

令和五年八月一日

長野県松本深志高等学校長　　石川　裕之